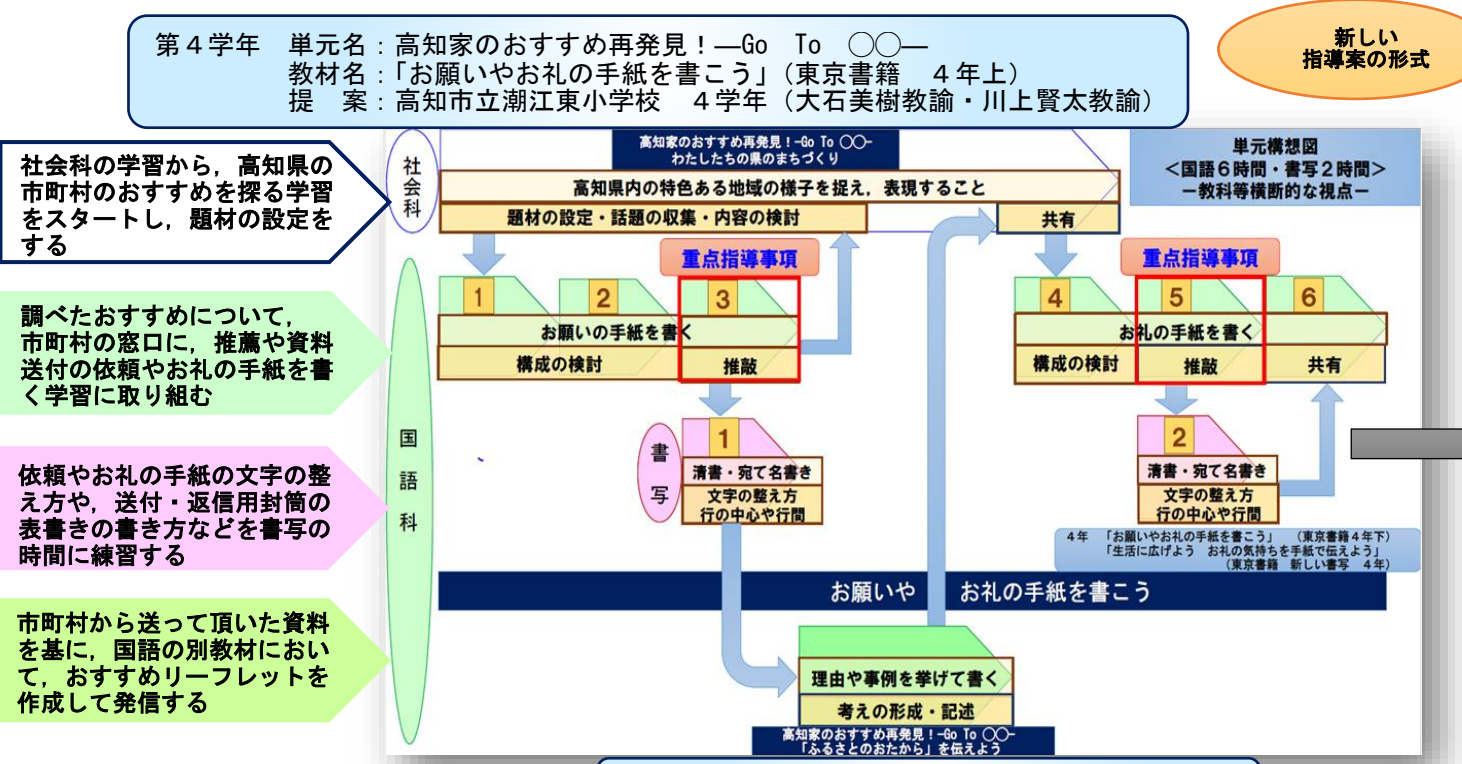


授業づくりに熱中する教員集団の姿がここにある！—教材研究で自らの「主体的・対話的で深い学び」を実践する研究体制の構築—



単元名：高知家のおすすめ再発見！—Go To ○○—
教材名：「お願いやお礼の手紙を書こう」（東京書籍 4年上）

言語活動：高知県内の特色ある地域を選び、おすすめしたいものについて、手紙で尋ねたり資料を読んだりする活動
 紙かリーフレットとともにお願いの手紙を届ける活動

4 単元の構想

(1) 児童の実態
 本単元の児童は、授業の振り返りや作文、日記等、書くことには抵抗なく取り組むことができる。しかし、書く内容や書き表し方の定着については個人差が大きく、個々の支援が必要である。また、手紙については、3年生の単元で書写の学習（はがき）を学んだ経験をもとに、手紙の書き方を覚えている。宛名の書き方等の学習定着を、授業・対話での依頼状やお礼状の書き出しに生かしたい。

(2) 教材の特性
 本教材は「書くこと」の手紙の系統として位置づけられ、2年生で「感謝の気持ちを伝えるために言葉を選んで簡単な手紙を書くこと」、3年生で「宛先がわかるように伝えること」を学習してきており、小学校段階では4年生で完了する。依頼状やお礼状、既読の案内状など実用的な文章としての手紙は、日常生活やあそびの教育活動において必要とされている。そこで、他教科や書写、国語科の他の単元との関連を図り、学習の場面に活用する。児童が実際に手紙を書く、封筒に入れて切手をつけて出したり、返事を受け取りたりすることで、相手に自分の気持ちを伝えることができるという手紙のよさも実感することができる教材である。

(3) 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
① 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体の違いに注意しながら書く。 【B1】き言葉【い】<2時間目>	① 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりや段落をつくり、文章の構成を考える。 【B1】き言葉【い】<2・4時間目>	① お願いやお礼の手紙を書くときに気を付けることを整理し、今後の学習を生活にどう生かしているかを考えている。
② 「書くこと」において、関連した表現を工夫し、相手や目的を意図した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 【B1】き言葉【い】<3・6時間目>	② 「書くこと」において、関連した表現を工夫し、相手や目的を意図した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。 【B1】き言葉【い】<3・6時間目>	② お願いやお礼の手紙の書き方が分かったよ！ ■気持ちが届いたか知りたいな！

(4) 単元と評価の計画（全6時間）

問	社会	国語
わたしたちの県のまちづくり	高知家のおすすめ再発見！ 1. 高知県の特色ある地域を選び、おすすめしたいものについて、資料を調べ、依頼状やお礼状の書き出しをめぐり、計画を立てる。 2. 教科書の手紙例を基に、共通する手紙の構成やそれぞれの箇所に書かせる内容や用語を確認し、相手や目的に合った内容を書く。	高知家のおすすめ再発見！ 1. 手紙の構成に沿って下書きをする。 2. 下書きに間違いがないか、相手や目的を意図した表現になっているか確認する。 【書写】（生活に広げよう）お礼の気持ちを手紙で伝えよう 下書きを基に清書し、封筒の宛名を書く。
学習内容	☆手紙の構成に沿って、「本文」に書く用件や言葉の使い方を確かめながら、伝えたいことを具体的に考えている姿。 ★【知・技】 ★【思・判・表】 ★【主】	☆手紙の構成に沿って、「本文」に書く用件や言葉の使い方を確かめながら、伝えたいことを具体的に考えている姿。 ☆「お願い」の手紙と比較して、「前文—本文—末文—後付け」の構成を理解し、それぞれの箇所に書く内容を考えているか確認する。 ★【知・技】 ★【思・判・表】 ★【主】
本時の評価規準	☆手紙の構成に沿って、「本文」に書く用件や言葉の使い方を確かめながら、伝えたいことを具体的に考えている姿。 ★【知・技】 ★【思・判・表】 ★【主】	☆手紙の構成に沿って、「本文」に書く用件や言葉の使い方を確かめながら、伝えたいことを具体的に考えている姿。 ☆「お願い」の手紙と比較して、「前文—本文—末文—後付け」の構成を理解し、それぞれの箇所に書く内容を考えているか確認する。 ★【知・技】 ★【思・判・表】 ★【主】

言葉による見方・考え方を働かせた子供の姿
 本時の評価規準を見取るための評価方法

【高木研究主任から】
 1回目の教材研究会、2回目の授業研究会を通して、「教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの視点で単元を構想することで言語活動の質を上げること」「子供たちの問いの連続で子供たちが自分ごととして考えられる単元をつくること」を共有できてきました。
 一方で、授業実践を通して、「子供たちが自身が自分の付いた力をBeforeとAfterでメタ認知できるように見える化が明確でない」「子供たちの多様性を引き出すことができていない」という課題が明確になってきました。
 そこで、今回の4年生の提案では、以上の2点の課題改善を意図して提案することとします。

【高木研究主任から】
 これまでの取組から、潮江東小学校では、「本時の評価規準を見取るための評価方法」と「言葉による見方・考え方を働かせた子供の姿」の捉えが弱いため、授業の中での具体的な指導・支援が弱くなってしまっているという課題があります。
 今日、4年団の提案を踏まえたうえで、「評価方法」と「言葉による見方・考え方」の2点について演習形式で検討します。

【各グループから】
 国立教育政策研究所から示された『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料を基に、評価規準に対する「評価方法」や「評価場面」をより具体的に描くことで、効果的な指導・支援を具体的に構えることが可能だと分かりました。

【各グループから】
 本時では、「対象」と「言葉」、「言葉」と「言葉」を何と何に置き、どのような意味付けや働きや使い方に着目すればよいのかを考えました。手紙文の中の言葉の内容や働きと関連付けて考えることが大事だと分かりました。

【4学年団から】
 依頼の手紙文の言葉（お願いすること）と言葉（理由）を関係付けて、自分が書いた文章が相手を動かす（返事や資料を送ってもらえる）働きかけになっているかどうかを吟味・検討する姿を目指しています。

【高木研究主任から】
 第3回目の教材研究会では、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための鍵となる「言葉による見方・考え方」と「評価方法」について、提案学年だけではなく、私たち一人一人が自分ごととして考えました。その結果、「言葉による見方・考え方」を考えるうえで、教材文への着目が弱かったことが課題であることが明確になりました。
 以前、齊藤先生からお聞きした「私たちは教材研究以上の授業はできない」という言葉を思い出し、改めて教材分析の大事さを思いました。次の授業研究会に向け、再度教材分析し直して臨みます。

【4学年団から】
 今回提案する単元では、1つ目の課題に対して、「依頼の手紙」の定型文<Before>をスタートに、相手の心を動かし行動化してもらえる手紙に推敲して書き換える<After>を比較しながら成長をメタ認知できるようにします。
 2つ目の課題に対しては、相手や依頼内容を一人一人異なる状況にすることで、依頼の手紙の内容に多様性が生まれ、交流し合う必要性や必然性をもたせようと考えています。

【各グループから】
 本時の評価規準を見取るための評価方法
 依頼の手紙の内容から、地域ならではの理由や興味を持って書かれた理由を明確にしている。

【各グループから】
 依頼の手紙の内容から、地域ならではの理由や興味を持って書かれた理由を明確にしている。

【各グループから】
 依頼の手紙の内容から、地域ならではの理由や興味を持って書かれた理由を明確にしている。

【4学年団から】
 依頼の手紙文の言葉（お願いすること）と言葉（理由）を関係付けて、自分が書いた文章が相手を動かす（返事や資料を送ってもらえる）働きかけになっているかどうかを吟味・検討する姿を目指しています。

【高木研究主任から】
 第3回目の教材研究会では、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための鍵となる「言葉による見方・考え方」と「評価方法」について、提案学年だけではなく、私たち一人一人が自分ごととして考えました。その結果、「言葉による見方・考え方」を考えるうえで、教材文への着目が弱かったことが課題であることが明確になりました。
 以前、齊藤先生からお聞きした「私たちは教材研究以上の授業はできない」という言葉を思い出し、改めて教材分析の大事さを思いました。次の授業研究会に向け、再度教材分析し直して臨みます。

